

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

電気電子工学課程の教員養成の目標
工業・情報の領域の確かな基礎を持ち、新しい技術に柔軟に対応でき、コミュニケーション能力を備えた教員の養成を目標とする。

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は課程では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	教育制度論	教育課程論					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学	特別支援教育	教育原理	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法				
教育実践に関する科目			生徒・進路指導論	教育相談				
				教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)				
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通じて、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	

教科専門科目(工業)	工業科教育法A → 工業科教育法B			
	各教科の指導法(情報通信技術の活用含む)。 教科に関する専門的事項 職業指導	電気回路Ⅰ及び同演習 → 電気回路Ⅱ及び同演習 → 電気回路Ⅲ → 電子回路Ⅰ → 電子回路Ⅱ 電磁気学Ⅰ → 電磁気学Ⅱ → 電気回路Ⅳ → 電気機械工学 固体電子工学Ⅰ → 固体電子工学Ⅱ → 電気電子材料 電気電子計測 プログラミングⅠ ※その他の関連科目 電気電子工学実験Ⅱ 工業概論* 職業指導(工業)*	電力工学概論 パワーエレクトロニクス 電気法規	
教員養成の計画	後期は、電気電子分野の基本となる直流回路および交流回路の基礎知識を講義と演習を通じて習得する。	前期は、実際の交流回路の解析法を習得するとともに、電磁気の場の考え方とベクトル解析手法を身につける。後期は、二端子対回路および過渡現象の解析法を習得するとともに、変動する電磁場の基礎、および、量子力学の概念を理解する。	前期は、電子デバイスの基本動作を理解するとともに、計測機器を用いた実験により電気・電子回路について理解を深め、さらに結果の整理・報告を通じて文章作成能力を養う。後期は、電子機器の基本的な動作原理を理解する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期は、専門性の高い科目および電気法規について学ぶと共に、研修実験を通じて問題解決能力を身につける。後期は、研修論文のまとめを通じて、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけ、4年間の学習を統合する。

教科専門科目(情報)	情報科教育法A → 情報科教育法B			
	各教科の指導法(情報通信技術の活用含む)。 情報社会(職業に関する内容)・情報倫理 コンピュータ・情報処理 情報システム 情報通信ネットワーク マルチメディア表現・マルチメディア技術	情報社会とモラル* 産業社会と倫理 情報と職業* 基本情報技術Ⅲ 基本情報技術Ⅱ → デジタル回路 → 制御工学 → センサ工学 → ロボティクス 電気電子工学実験Ⅰ コピュータネットワーク* → マルチメディアシステム* アルゴリズム基礎 → 数値計算法 CAD製図 電気電子工学実験Ⅲ	プログラミングⅠ → プログラミングⅡ ※その他の関連科目	
教員養成の計画	前期は、コンピュータ・情報処理の分野で必要となるプログラム文法の基礎知識を習得する。後期は、デバック手法の学習によりプログラム開発能力を身につけるとともに、システムソフトウェアの基礎知識を修得する。	前期は、情報システムにおける経営および技術マネジメントの考え方を理解する。後期は、デジタル回路で必要となる数体系と論理代数、および、コンピュータネットワークの仕組みを理解するとともに、演習や実験によって技能の習得に努める。	前期は、デジタル技術に基礎をおくマルチメディアの概念を理解するとともに、日本工業規格に基づく製図の知識を習得する。後期は、実験によって講義内容の理解を深め、さらに結果の整理・報告を通じて文章作成能力を養う。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	専門性の高い科目について学ぶと共に、研修実験を通じて問題解決能力を身につける。後期は、研修論文のまとめを通じて、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけ、4年間の学習を統合する。

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

情報通信工学課程の教員養成の目標
工業・情報の領域の確かな基礎を持ち、幅広い視野と高い倫理観を持った、情報処理に秀でた教員の養成を目標とする。

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は課程では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	教育制度論	教育課程論					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学	特別支援教育	教育原理	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法			
教育実践に関する科目					教育相談			
					教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)			
教育実践に関する科目							教育実習 事前・事後指導	教職実践演習(高)
教育実践に関する科目							教育実習	
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通じて、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	

教科専門科目(工業)	工業科教育法A		工業科教育法B	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用含む) 教科に関する専門的事項 職業指導	情報リテラシーⅠ プログラミング入門 ※その他の関連科目	電気回路入門 → 電気数学 → 電磁気学Ⅰ 電気回路Ⅱ及び同演習 電子回路Ⅰ及び同演習 情報通信工学実験Ⅰ	通信工学Ⅰ 電磁気学Ⅱ 半導体デバイス → 電子回路Ⅱ 情報通信工学実験Ⅱ 工業概論* 職業指導(工業)*
教員養成の計画	前期は情報リテラシーとプログラミング技術についての知識と技能を修得する。後期は、電気回路の基礎について学ぶ。	前期は電気現象の数学的扱いについて学ぶ。後期は、電気回路及び電子回路の基礎知識を学ぶと同時に、演習や実験を通じて回路設計の技能を修得し、講義内容の理解を深める。	前期は、通信技術や半導体の基礎を学ぶと同時に、実験を通じて結果を整理・報告する能力の涵養を図る。後期は、電子回路の設計理論について理解を深める。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期は、専門性の高い各論として光通信工学や音響工学等について学ぶ。それと合わせて前期・後期を通じて、卒業研修を実施することで、問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を修得し、4年間の学習を統合する。

教科専門科目(情報)	情報科教育法A		情報科教育法B	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用含む) 情報社会(職業に関する内容)・情報倫理 コンピュータ・情報処理 情報システム 情報通信ネットワーク マルチメディア表現・マルチメディア技術	プログラミング入門 ※その他の関連科目	アルゴリズムとデータ構造及び同演習 情報リテラシーⅡ コンピュータネットワークⅠ 論理回路 アカデミックスキル 基本情報技術Ⅰ* ソフトウェア設計 データベース* コンピュータ数値解析	情報社会とモラル* 情報と職業* 産業社会と倫理 計算機工学Ⅰ → 計算機工学Ⅱ 組込みシステム設計 情報理論 通信工学Ⅱ 情報通信工学実験Ⅲ アプリケーション開発 コンピュータグラフィックス技術*
教員養成の計画	後期に、情報工学の基礎として、コンピュータにおける情報の表現について学ぶ。アルゴリズムの基礎を学び、それを基にコンピュータネットワークを構築するための知識と技能を修得する。	前期は、論理回路と実験に必要なスキルを学ぶ。後期は、コンピュータハードウェアについて知識と技能を修得する。	前期は、コンピュータグラフィックスの作成やアプリケーション開発に関する技術等を学ぶ。後期は、情報理論や通信システムで扱う情報の伝送方法について学ぶ。前期と後期を通じて、計算機や組み込みシステムの設計理論を学び、それと合わせて教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期・後期を通じて、卒業研修を実施することで、問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を修得し、4年間の学習を統合する。

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

都市工学課程の教員養成の目標	
工業の領域の確かな基礎を持ち、高い良識と倫理観を持った、都市や地域社会のマネジメントに関わる高度な知識と能力を有する教員の養成を目標とする。	

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は課程では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理	生徒・進路指導論 特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談			
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目				教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)			
	教育実践に関する科目						教育実習 事前・事後指導	教職実践演習(高)
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	

教科専門科目(工業)	各教科の指導法 (情報通信技術の活用含む)		工業科教育法A → 工業科教育法B	
	教科に関する専門的事項	環境・防災工学	構造力学基礎Ⅰ コンクリート → 鉄筋コンクリートⅠ → 鉄筋コンクリートⅡ 基礎地盤工学 → 応用地盤工学 水理学基礎Ⅰ → 水理学基礎Ⅱ	都市計画 → 都市交通計画 社会基盤マネジメント 空間測量Ⅰ → 空間測量Ⅱ
職業指導	情報基礎* ※その他の関連科目	数理的計画論および同演習 → 都市計画 → 都市交通計画 空間測量Ⅰ → 空間測量Ⅱ		
教員養成の計画	専門科目にかかわる工業・情報の領域の基礎を築くために、前期は、環境と防災分野の基礎と、情報の基礎的なリテラシーを学ぶ。後期は、材料の基礎を学ぶ。	各専門分野の基礎を築くために、前期は、材料力学および構造力学、地盤工学、水理学、測量学の基礎を学ぶと共に、空間測量実習により具体的な技術を習得する。後期は、水理学の基礎に加えて、材料力学と地盤工学の応用分野についても理解を深める。	前期は、都市や交通の計画論の基礎および工業概論と工業科の職業指導について学ぶとともに、実験により専門分野を実践的に学ぶ。後期は、交通の計画論とマネジメント論に加えて測量学の応用について理解を深める。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期と後期を通して、研修への取り組みを通して専門分野に係る現実の社会問題を把握し、それを契機として自己啓発や相互理解と協力で努め卒業論文をまとめることにより、4年間の学習を統合する。

本学の教員養成の目標

東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを本学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。

1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。
2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。
3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。
4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。

環境応用化学課程の教員養成の目標

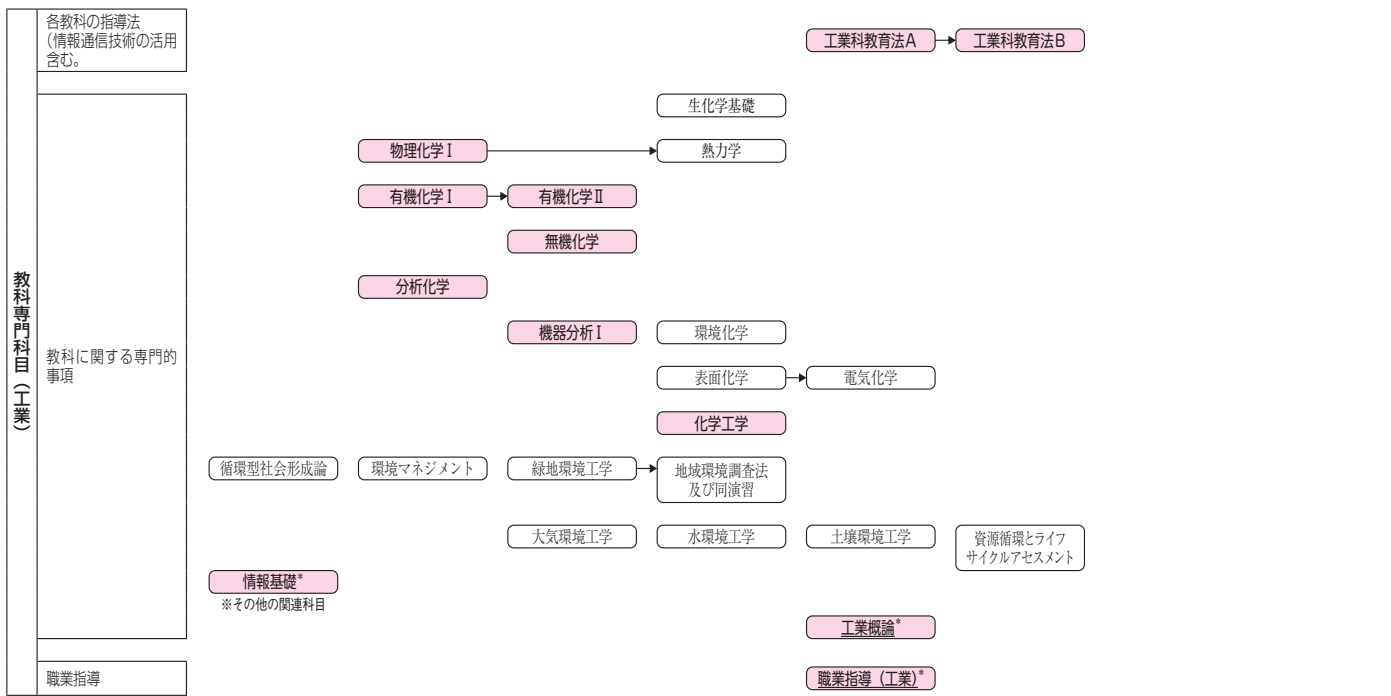
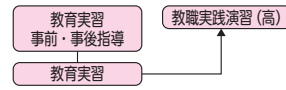
持続可能な社会の構築に向け、応用化学の発展と地球環境保全の調和をめざす高度の解析処理能力を基盤とした視野の広い工業教育を行う教員を養成することを目標とする。

必修科目

選択科目

※下線科目：一般的包括的科目、*は課程では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	教育制度論	教育課程論					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学	特別支援教育	教育原理	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法			
教育実践に関する科目					教育相談			
					教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)			
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通じて、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



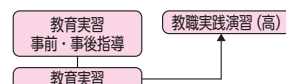
教員養成の計画	前期は情報と循環型社会形成に関する科目を学び、持続可能な社会のために必要な仕組みを理解する。後期は、工学・工業の社会における役割と問題点を、応用化学と環境学の基礎講義を通して理解する。	前期は、機器分析の科目を通して分析機器の原理を理解し、物質や環境を分析する基礎知識を習得する。後期は地域環境調査法の科目を通して環境調査の手法を学び、実技分野に必要な基礎知識を身につける。また、専門的な内容を誰にでもわかりやすく説明する能力と論理的な受け答えをする能力を身につける。	前期は、電気化学の科目を通して化学技術の応用が、環境・エネルギー問題の解決の必要要素であることを学び、応用化学技術者を育成する責任の重要性を理解する。後期は、資源循環に関する科目を通して持続可能な社会を支える物質循環の視点から工業の役割を理解する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期は、科目の総まとめを踏まえて、研修に取り組み、バランスのとれた実践力を身につける。また、学会や科学イベントなどへの参加により、地域との繋がりを実感するとともに化学の魅力を高中生や中学生に伝える方法を身につける。後期は、研修のとりまとめを通じて問題の発見と解決による自発的な課題への取り組みを実践し、4年間の学習を統合する。
---------	--	---	---	---

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

建築学科の教員養成の目標
工業の領域の確かな基礎を持ち、総合的な視野と高い倫理観を備えた、建築に秀でた教員の養成を目標とする。

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目 教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 教育実践に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)				
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



教科専門科目(工業)	工業科教育法A → 工業科教育法B	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用含む) 建築入門 建築設計 I 建築表現 建築CAD ※その他の関連科目 建築計画 I ヨーロッパ建築史 骨組の力学 I 建築材料 I 建築環境工学概論	都市計画 建築計画 II 日本建築史 骨組の力学 II 建築材料 II 建築材料実験 熱・空気環境 建築法規及び同演習
教科に関する専門的事項 職業指導	建築設備システム及び同演習 建築プロフェッショナル論 工業概論 職業指導(工業)*	

教員養成の計画
前期は、建築入門を通して建築学が包含する広く深い世界に触れながら、設計・製図に必要な基礎的な知識を修得し、平面と立体をイメージして表現する技術を身につける。また、構造材料に関する基礎的な知識を修得する。後期は、計画、歴史、材料、構造、環境に関する基礎を学び、住宅など身近な建物の設計のための知識と技術を修得する。
前期は、歴史、材料、構造、環境に関する基礎を学ぶと共に、演習や実験によって講義内容の理解を深める。後期は、公共施設、商業施設、地域施設などの設計のための知識と技術を修得する。また、関連する法規の基礎を学び、社会に適用できる実践的な力を身につける。
前期は、より広い視点での社会貢献を目指して都市計画、地域計画を学び、また、設備システムを実践的に理解する。さらに現役実務者の講義により、専門技術を活用できる職域を理解し、地域社会に貢献するための基本的、実践的知識を修得する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。
専門性の高い計画、構造等の各論について学ぶと共に、少人数による卒業研修を通して企画力、提案力、分析力、表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につける。

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

産業デザイン学科の教員養成の目標	
工業の領域の確かな基礎を持ち、幅広い視野と高い倫理観を持った、問題把握力とその解決のための具体的な提案力に秀でた教員の養成を目標とする。	

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育制度論	教育課程論	教育原理				
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学 特別支援教育	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談				
	教育実践に関する科目			教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)				
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	

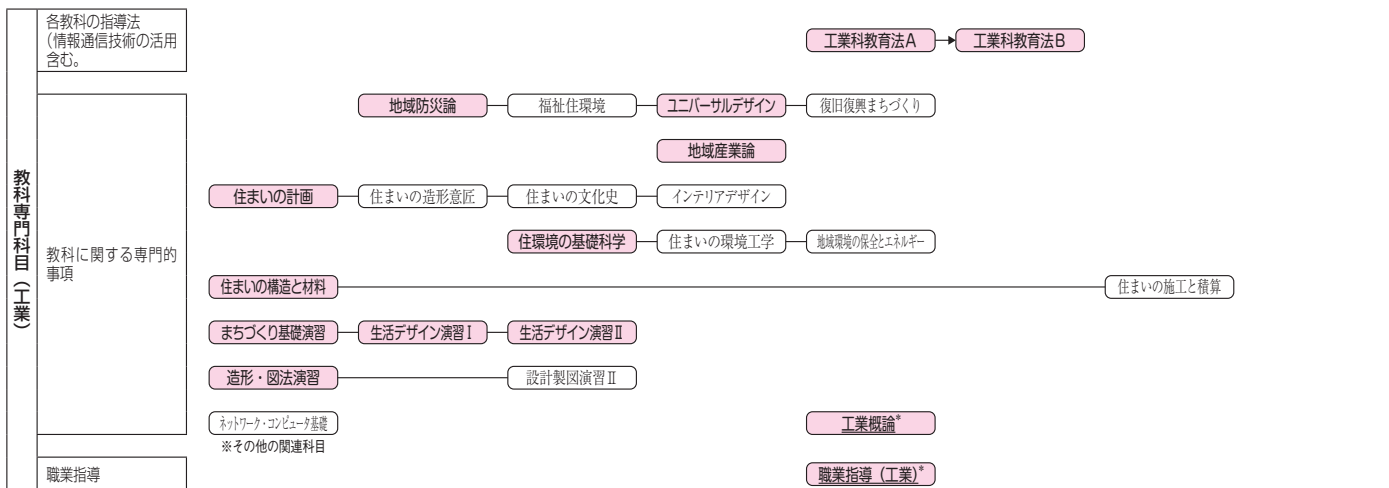
教科専門科目(工業)	各教科の指導法 (情報通信技術の活用含む)		工業科教育法A → 工業科教育法B					
	教科に関する専門的事項	デザイン論Ⅰ → デザイン論Ⅱ → デザイン論Ⅲ デザイン史 表現技術および同演習Ⅱ <small>※その他の関連科目</small>	情報デザイン論 エディトリアルデザイン論 材料学・生産技術* インタラクティブデザイン論 エルゴノミクス* ユニバーサルデザイン* デザインマーケティング論*	サウンドデザイン論* 工芸学*				
職業指導		工業概論*	職業指導(工業)*					
教員養成の計画	前期は、デザインを行う上で最低限必要な教養としてのデザインの歴史を学ぶ。後期は、色彩や配色の基礎を学び色彩の心理的効果等を重視し、適切にコーディネートできる能力を習得する。前期と後期を通して多岐にわたるデザインの対象を包括的に学びその幅広さと、現代社会でのデザインの有効性、意義を理解する。コンピュータの基本的な使用方法を習得する。		前期は、紙面の基本的な設計方法を習得すると共に、産業とデザイン分野との関係を理解し、現代産業におけるデザインの役割、意義を理解する。後期は、生活の中で使われる様々な工業製品の素材の特性についての知識、人々の活動と情報の関係を理解する。		後期は、デザインとサウンドの関係をデザインの視点から理解し、サウンドデザインの理論や手法を習得する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は、工芸論の理解にとどまらず、現代の我々が抱える工芸の課題、クラフトデザインについて考える。前期と後期を通して、必修科目である研修を通して、デザインの実践力、応用力、プレゼンテーション力を高める。	

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。	
1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。	
2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	
3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。	
4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

生活デザイン学科の教員養成の目標
工学・建築学・保健衛生学・福祉学・文化芸術学・環境学などの諸領域を中心に、工学・工業に関わる確かな基礎知識と統合力・デザイン力を持ち、幅広い視野と高い倫理観を有する教員を養成することを目標とする。

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育制度論	教育課程論	教育原理				
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学 特別支援教育	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談				
	教育実践に関する科目			教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)				
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



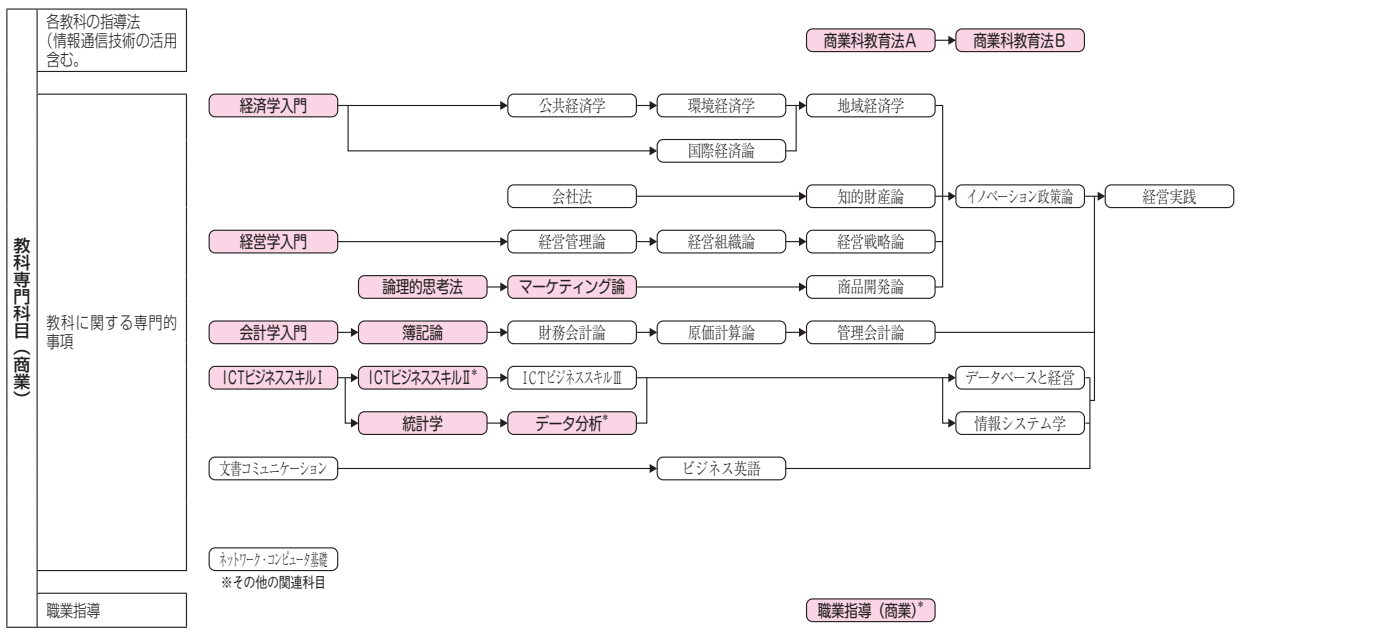
教員養成の計画	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
前期はまちづくりや生活デザインの基盤である「地域(空間及び社会)」について学ぶと共に、造形と製図についての基礎的な知識と技能を習得する。後期は造形と製図について引き続き知識と技能を習得する。	前期は工学・建築学や保健衛生学をもとに、福祉学・文化芸術学・環境学等を含めた生活デザインの領域の基礎を横断的に学ぶと同時に、演習によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め、ならびに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。後期も同様に横断的な学びを継続する。	前期は横断的に学んできた工学・建築学・保健衛生学・福祉学・文化芸術学・環境学などについて専門的に学び、演習によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め、ならびに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。後期も同様に同分野について行う。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期は専門性の高い各論として生活デザインについて学ぶのと並行し、前期と後期を通して問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を、研修を通じて4年間の学習を統合する。	

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

経営デザイン学科の教員養成の目標	
持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の進展を踏まえ、地域産業や経済社会を健全に発展させる為の、実践力となる知識・情報分析技能・倫理観を有する教員を養成することを目標とする。	

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	教育制度論	教育課程論					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学	特別支援教育	教育原理	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	教育相談		
教育実践に関する科目					教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)			
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通じて、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



教員養成の計画	
前期は「ビジネスの基礎」について学び、経済の仕組みを支えるビジネスのシステムを理解する。後期は、社会経済事象に関する情報の収集・分析に関する知識と技能について学び、さらに課題研究において、ビジネス事象に関わるデータの収集・分析力やコミュニケーション能力の涵養をも図る。	前期は、社会経済上の課題を設定し、理論を用いて計画的に解決する手法を理解する。また、マーケティング、企業会計およびビジネスの現場で必要となるICT(情報通信技術)利用に関する手法を学び、情報の的確な処理能力とともに経済事象の分析を通じた課題解決能力を涵養する。後期は、グローバル経済、企業経営について学ぶ。
前期は、地域経済学の理論と実践について学び、また、ビジネスの現場において必要である広範囲の経営に関する知識を深化させ、現場での適応能力を涵養する。後期は、地域振興に関わる科目を重点的に学ぶ。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期は、ビジネスの現場を想定した実践的テーマに基づいたシミュレーションを通じて、現場適応能力をブラッシュアップする。更に、現実社会に即したビジネスの課題発見・解決という実践力を構築することを目標とした4年間の教科で得た技術・知識・経験を統合する。